

「平成30年度 奈良県宣言」振り返り

| 宣言者 | 宣言 | 振り返り内容 |
|----------------------|---|--|
| 知事 荒井 正吾 | <p>「奈良をもっと良くする」ことに強い思いを持って、「奈良モデル」の基本精神にある「対等の立場での連携・協働」を胸にきざんで、県下市町村、民間企業、県民の皆様と良きパートナーとなって、地道に具体的な努力を重ねていきたいと思えます。</p> | <p>県庁職員、県民の皆様には県政発展の方向性とやり方について、ご理解とご支援を賜りありがとうございます。奈良県政が力を発揮できるのは連携の核になることだと思えます。</p> |
| 副知事 村井 浩 | <p>○8つの主要な政策を、部局間の連携のもと着実に進めます。 「誰もが健やかに暮らせる地域づくり」、「安全で安心して快適に暮らし続けられる県づくり」、「県経済の好循環促進、働きやすく、良く学べる地域社会づくり」、「農・畜産・水産業の振興、林業・木材産業振興と新たな森林環境管理体制の構築」、「県内への誘客促進、観光産業振興」、「県土マネジメント推進、住みよいまちづくり」、「南部・東部地域を訪れてもらえ、住み続けられる地域に」、「県・市町村の連携・協働『奈良モデル』の推進」 ○これらの政策を支える県行財政基盤の確立と、台風21号等の災害復旧、働きやすい職場環境づくりなどの喫緊の課題に取り組めます。</p> | <p>8つの主要な政策と、これを支える行財政基盤の確立、災害復旧、働き方改革などの課題への取組は、県民の皆様のご理解と県職員の努力が相まって、概ね順調に進んでいると思えます。しかし、まだ緒についたばかりの分野、具体策が十分ではない課題、部局間の連携がさらに求められる政策などがあること、また、31年度当初予算が骨格予算であることを踏まえつつ、来年度も引き続き各般の取組を着実に進めていく必要があると考えます。</p> |
| 副知事 一松 旬 →村田 崇 | <p>市町村との連携・協働による「奈良モデル」を深化させ、その一環として、国保運営の安定化、加入者負担の公平化、医療費の適正化、医療・介護サービス提供体制の整備を四位一体で推進し、県域水道一体化に取り組めます。 文化・観光面では、(仮称)国際芸術家村の整備や文化財保護部門の知事部局移管の準備等を推進するとともに、インバウンド観光戦略20年ビジョンの策定に取り組み、「春日若宮おん祭」の海外出展や仏像海外展示など観光プロモーションを積極展開します。 教育・福祉面の取組みと併せ、女性・若者・障害者・高齢者など県民一人ひとりが活躍し、郷土に誇りと愛着を持てる奈良県の実現を目指します。</p> | <p>新たに保険者協議会に医師会等医療関係団体の参画を得て主体的な取組を促進するとともに、地域ごとに医療・介護関係者等と協議を重ね、医療機関の役割分担や連携強化を推進しました。 また、県域水道一体化については、「新県域水道ビジョン」を策定するとともに、先行実施している磯城郡3町では、一体化に向け、県も人的支援を行って準備室を設置、具体的な検討を行いました。 文化・観光面では、ジャポニスム2018にあわせ、オープニングでの吉野の紹介や「春日若宮おん祭」の出展、閉幕を飾るギメ東洋美術館での仏像展示等、パリにおいて積極的なプロモーション活動を行い、来るラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピック、大阪・関西万博へ向けた奈良への来訪者増加の取組を実施しました。</p> |

「平成30年度 奈良県宣言」振り返り

| 宣言者 | 宣言 | 振り返り内容 |
|---------------------------------|--|--|
| <p>総務部長 村田 崇 →末光 大毅</p> | <p>近年ますます多様化する行政需要に対応した職員の人材育成や、働き方改革への対応を含めた組織運営の活性化など、県庁組織全体のマネジメント強化を図るとともに、文書管理や情報公開の在り方について抜本的な検討を行います。</p> <p>県勢の未来を展望した主要プロジェクトを堅実に推進する一方で、将来的に持続可能な財政運営を念頭に、財政規律を堅持し、事業の選択と集中を徹底するなど、財政健全化の取組を継続します。</p> | <p>今年度立ち上げた「庁内働き方改革推進プロジェクトチーム」のもと、「時間管理」、「業務管理・改善」及び「健康管理」の三本柱で職員の働き方改革を進めるとともに、行政文書管理及び情報公開制度について、監理組織の強化やマニュアルの整備、研修の充実等を行い、組織面の対応と職員の能力向上及び意識改革を図りました。</p> <p>予算編成では、県勢発展に向けた取組の推進と将来にわたり持続可能な財政基盤の確立を両立する観点から、主要プロジェクトの着実な進捗を図る一方、将来県税収入等県の財源で償還する県債残高を前年度から86億円削減する等財政健全化を前進させました。</p> <p>また、県有施設に係る総合調整機能発揮の観点を踏まえ、「県有施設等耐震検討チーム」を新たに立ち上げ、チームリーダーとして、耐震性能の向上のため、部局横断的に総合的な取組を進めています。</p> |
| <p>知事公室長 栢井 和也</p> | <p>マネジメントサイクルにより、県政各般の政策を実現します。</p> <p>県地方創生総合戦略を着実に推進します。</p> <p>政策形成のため、統計データの整備、利活用や統計リテラシー向上に取り組めます。</p> <p>県政情報をわかりやすく、正確かつスピーディに県民の皆様にお届けするとともに、皆様の声を政策に活かします。</p> <p>国内外の地方政府等との政策議論や交流の推進に努めます。また、県内在住の外国人の皆様を支援します。</p> | <p>政策課題解決のための会議の方法を見直し、議論の充実に取り組めました。県民のニーズや課題を把握し、その分析を基に戦略を練り、創意工夫を重ね、政策を実行し、検証するPDCAサイクルを着実に実行することを心がけました。</p> <p>地方創生を推進するため、国の制度の勉強会や県地方総合戦略の進捗のチェック等を行いました。</p> <p>スタートイベントの実施等、統計リテラシーの向上に努力していますが、国の統計不正問題を契機に、統計調査の重要性、EBPMの必要性を改めて強く認識しました。</p> <p>地域フォーラムを開催したほか、県民日より奈良、スマホアプリ「ナラプラス」等様々な広報ツールで情報発信に努めました。</p> <p>東アジア地方政府会合の開催や友好提携地方政府との活発な交流を行いました。また、新たな外国人の受入拡大を受け、共生のための外国人支援の取組を検討しました。</p> |

「平成30年度 奈良県宣言」振り返り

| 宣言者 | 宣言 | 振り返り内容 |
|-------------------------|---|--|
| <p>危機管理監 上田 博文</p> | <p>南海トラフ巨大地震などへの対応を見据え、ヘリポート設置について自衛隊と連携して調査・検討を深めるとともに、県広域防災拠点・消防学校の整備構想を進めます。</p> <p>また、自主防災組織の育成に努め、防災リーダー養成や防災訓練支援のほか、消防団員確保対策等を行い、地域防災力の向上を図ります。</p> <p>さらに、消防力の強化や救急搬送の迅速化など、消防救急体制の充実強化を図るとともに、「安全・安心の確保のための奈良県基本計画」に基づき、警察等と協働して施策に取り組み、「日本一安全で安心して暮らせる奈良」の実現を目指します。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・大規模広域防災拠点の整備を行う上で、必要な諸施設の具体的な整備内容・規模等について、調査・検討を実施しました。 ・防災リーダー養成や防災訓練支援のほか、地域の気遣い役として県職員・OBが平常時から地域の一員として活動する地域防災支援担当者制度をスタートさせるとともに、消防団の車両・資機材整備支援や、企業・大学等との連携による消防団への入団促進に取り組み、地域防災力の向上に努めました。 ・緊急消防援助隊の登録隊数の増加や車両・資機材の整備のほか、消防機関と医療機関の連携による救急搬送時間の着実な短縮など、消防・救急体制の充実強化を図りました。 ・「安全・安心の確保のための奈良県基本計画」に基づく初年度事業結果の効果検証を行い、次年度に活かすマネジメントサイクルを推進しています。 |
| <p>地域振興部長 山下 保典</p> | <p>文化財保護制度の見直しを受けて、歴史文化資源の保存と活用を一体的に展開できる体制の検討を着実に進めます。また、「国文祭・障文祭なら2017」の成果を継承した大芸術祭と障害者大芸術祭の一体開催などの芸術文化イベントの充実、「(仮称)奈良県国際芸術家村」を核とした文化芸術振興の拠点づくりなどに取り組みます。</p> <p>「奈良県教育振興大綱」に沿った教育の振興を図るとともに、次期エネルギービジョンの検討を進めます。</p> <p>県域水道一体化に向けた「県域水道ビジョン」の策定や、市町村事務の共同アウトソースの推進など、引き続き「奈良モデル」の取組を推進し、頑張る市町村を支援してまいります。</p> | <p>歴史文化資源の保存と活用を一体的に展開するため、部内に文化財保存課を編入することとしました。また、フランス・ギメ東洋美術館での仏像展示、「ムジークフェストなら」や「大芸術祭」と「障害者大芸術祭」の一体開催など、芸術文化イベントの充実に取り組みました。「(仮称)奈良県国際芸術家村」については建築工事等に着手し、名称を「なら歴史芸術文化村」としました。</p> <p>「奈良県教育振興大綱」に沿った教育の振興を図るとともに、「第3次エネルギービジョン」を策定しました。</p> <p>県域水道一体化に向けた「新県域水道ビジョン」を策定するとともに、市町村と業務効率化モデルの検討を進めるなど、「奈良モデル」の取組を推進し、市町村を支援しました。</p> |

「平成30年度 奈良県宣言」振り返り

| 宣言者 | 宣言 | 振り返り内容 |
|--------------------------------|--|--|
| <p>南部東部振興監 前阪 祥弘</p> | <p>奥大和地域の魅力を活かしたスポーツ・音楽・芸術イベントの開催や雑誌・WEB・映像等による地域の魅力の発信、また、都市部でのファンづくりイベントの開催により、奥大和地域と深い繋がりを持ち、幾度も訪れるようになる方々『関係人口』を増やしていきます。</p> <p>併せて、民間企業や市町村とも連携した奥大和地域での「新たな仕事づくり」や地域で育ってきた「モノづくり」の動きを活かし、デザインの力を使って販売力の強化につなげていきます。</p> <p>また、地域住民に寄り添って健康を見守る活動を実践するコミュニティナースを育成、配置するなど、安心して住み続けられる地域への取組を推進します。</p> | <p>奥大和地域の市町村と協働で実施している弘法大師の道を活用した山岳マラソン「Kobo Trail」は5回目の開催、天川村洞川温泉街で開催する「えんがわ音楽祭」も4回目の開催となり、リピーターが増加し、参加者同士の繋がりも生まれてきています。</p> <p>また、都市部の若者が地域課題の解決のための取組を自ら創意工夫して実践する「奥大和アカデミー」では、参加者が自発的に、都市部や奥大和地域でイベントを開催するなど、『関係人口』が増加しつつあります。</p> <p>奥大和地域商品の販売力強化の面では、阪神百貨店梅田本店やジャカルタで取り組んだポップアップストアが来場者に好評で、奥大和地域の資源や魅力も発信できました。</p> <p>また、定住の取組として、コミュニティナース活動の周知及び地域に導入するための養成講座を開催しました。</p> |
| <p>観光局長 折原 英人</p> | <p>20年後に見込まれるリニア中央新幹線の「奈良市附近」駅設置を見据え、「(仮称)奈良インバウンド観光戦略20年ビジョン」の策定に取り組みます。</p> <p>まず、急増するインバウンド観光需要に対応するため、上質なホテルや民泊サービスなど、宿泊施設の質と量の充実を図るとともに、Wi-Fi環境、観光案内サイン、観光地への移動円滑化など、受け入れ環境の整備を進めます。</p> <p>また、フランスでの「ジャポニスム2018」への参加により、奈良の奥深い魅力を海外へ発信するとともに、首都圏を中心とした国内プロモーションにも積極的に取り組みます。</p> | <p>「(仮称)奈良インバウンド観光戦略20年ビジョン」の策定に向け、素案の項目について検討を深めるとともに、具体的な取り組みを進めました。</p> <p>まず、県有地を活用した上質なホテルの誘致や、良質な民泊サービスの活用など、宿泊施設の質と量の充実を図りました。また、吉野山におけるWi-Fi環境の整備支援、東大寺ミュージアム前における観光案内所の開設、ユニバーサルデザインタクシーの導入支援など、受け入れ環境の整備を進めました。</p> <p>さらに、「ジャポニスム2018」への春日若宮おん祭の出展など、奈良の奥深い魅力を海外へ発信するとともに、興福寺中金堂落慶を核とした観光キャンペーンの展開など、首都圏を中心とした国内プロモーションにも積極的に取り組みました。</p> |
| <p>福祉医療部長兼医療政策局長 林 修一郎</p> | <p>「地域での見守り・支え合い」「障害者雇用」など福祉に関する優れた実践や、減塩・身体活動など健康づくりに取り組みやすい環境を、ますます県内に広げることで、誰もが、より健康に、安心して暮らせる奈良県を目指します。</p> <p>救急や高度医療に責任を持つ「断らない病院」と、高齢者の生活全体を支える「面倒見のいい病院」が機能を向上しながら連携し、質の高い医療体制の構築を進めます。</p> <p>福祉・介護・医療分野での働きやすさを向上するとともに、働きやすさを知ってもらう取組を強化し、人材確保に力を入れます。</p> | <p>福祉に関する地域の課題解決に向けて、包括的・予防的支援体制を構築していくため「奈良県地域福祉計画」を策定するとともに、奈良労働局と共同して「はたらく障害者応援団なら」を運営するなど官民挙げて障害者雇用を推進しました。</p> <p>ER体制の整備や県総合医療センターの移転開院などにより、救急・高度医療を担う「断らない病院」の機能が高まってきました。一方、高齢化社会に必要とされる医療機能の「見える化」により、各病院の強みの明確化や病院間の連携を進めています。こうした取組により、職場としての県内医療機関の魅力も高まり、県内の若手医師が増えています。また、福祉・介護人材の確保に向けて、働きやすい職場づくりに取り組む事業者への支援や、安心して働ける事業所の「見える化」を進めました。</p> |

「平成30年度 奈良県宣言」振り返り

| 宣言者 | 宣言 | 振り返り内容 |
|----------------------------------|---|--|
| <p>医療・介護保険局長 西川 浩至</p> | <p>国民健康保険の県単位化に伴う平成36年度の保険料水準の統一と、県民負担の上昇抑制のため、「第3期医療費適正化計画」で設定した医療費目標の達成に取り組めます。 高齢者が地域で安心して暮らすことができるよう「高齢者福祉計画」及び「第7期介護保険事業支援計画」を着実に実行し、介護サービスの充実を図るとともに、介護保険制度が将来にわたり持続的・安定的に運営されるよう、自立支援、介護予防、重度化防止に繋がる介護給付の推進に取り組めます。 また、県内全域における地域包括ケアシステムの構築とその深化・充実に取り組めます。</p> | <p>国民健康保険の保険料水準の統一に向けた課題について、市町村との連携会議を開催し、検討を進めるとともに、医薬品の適正使用促進や糖尿病の重症化予防等の医療費適正化の取組を、新たに県国保連合会に設置した国保事務支援センターや保険者、医療関係者と連携して実施しました。 特別養護老人ホーム等の整備をはじめサービスの充実を図るとともに、介護給付と要介護認定の適正化に向け、地域差分析結果に基づいたケアプランや認定判定の点検の推進、県ケアマネ専門職員派遣などの保険者支援を行いました。 また、地域包括ケアシステムの構築に向けて、南和圏域と中和圏域の16市町村において退院調整ルールの設定を行い、医療と介護の連携を推進しました。</p> |
| <p>こども・女性局長 橋本 安弘</p> | <p>社会全体で結婚、妊娠・出産から子育てまで切れ目なく支援するため、企業・団体等との連携による結婚応援や市町村による子育て支援策の拡充に取り組むとともに、女性が能力を十分に発揮して活躍できるよう、「なら女性活躍推進倶楽部」の会員企業等と連携した取組を推進します。 子どもの健やかな育ちのために、保育の量的拡大による待機児童の解消や保育人材の確保と資質の向上を図ります。 また、すべての子どもがその将来に夢や希望を持って成長していけるよう、児童虐待対策や経済的困難及び社会生活上の困難を抱える子どもを支援する取組を推進します。</p> | <p>会員数が101企業と大幅に増えた「なら女性活躍推進倶楽部」の企業と連携し、再就職を希望する女性と企業のマッチングを行うなど、県内企業への女性の就職促進に取り組めました。 また、保育所等の施設整備への支援や企業主導型保育事業の推進により、保育の量的拡大を図るとともに、保育士の処遇改善や経験年数等に応じた研修を実施するなど、人材の確保と資質の向上に取り組めました。 さらに、児童虐待対策の強化として関係機関との情報共有の強化、子ども食堂等地域の居場所づくりへの支援や里親制度の普及等に取り組めました。</p> |
| <p>くらし創造部長兼景観・環境局長 梶田 斉志</p> | <p>「だれもが、いつでも、どこでもスポーツに親しめる環境づくり」を目指し、市町村や関係団体等と連携しながら、ライフステージ・ライフスタイルに応じた地域スポーツの推進を図るとともに、中長期的な視野でスポーツ施設整備・運営のビジョン策定に取り組めます。 きれいに暮らす奈良県スタイル推進協議会で策定した行動計画に掲げる「大和川のきれい化」、「奈良らしい景観づくり」、「循環型的生活スタイル」の施策・事業について、市町村等と連携・協働して、更なる実践活動の誘発・促進を図ります。</p> | <p>・奈良マラソンをはじめ県内各地でスポーツイベントを開催するとともに、東京オリパラに向けてキャンプ地招致などに取り組めました。また、近畿大学の協力のもと、幼児向けプログラムの実践を県内12箇所幼稚園等に行うことができました。スポーツ施設については、現状・課題を分析し、中長期的な整備方針(案)を検討し、とりまとめました。 ・きれい化では、大和川の支川エリアで市町村等と実践部会を設置し、普及・啓発に取り組めました。景観では、県植栽計画の事業化推進を図るとともに、中和幹線沿道5市町と協働で屋外広告物の是正に取り組めました。ごみ処理広域化では、関係市町村への技術・財政支援を行い、新たに、橿原・高市の3市町村で共同処理の協定が締結されました。</p> |

「平成30年度 奈良県宣言」振り返り

| 宣言者 | 宣言 | 振り返り内容 |
|-----------------------------|---|--|
| <p>産業・雇用振興部長 中川 裕介</p> | <p>奈良県経済の好循環を促進するため、更なる企業誘致と産業用地の確保に向けたプロジェクトを推進します。県内の優良製品の発掘、県産品のブランド力向上と販路拡大、意欲ある起業家の育成、企業への研究開発支援などに取り組み、県内企業の海外展開をサポートするために日本貿易振興機構(ジェトロ)奈良貿易情報センターを誘致します。</p> <p>また、県内就業促進のための県庁版ハローワークの充実、県内外の大学等と連携した就職支援などによる地元企業の人材確保に取り組みます。さらに先進事例等を紹介した広報誌による啓発などに取り組み、県内の働き方改革を促進します。</p> | <p>トップセミナーの開催など誘致活動の結果、平成30年度38件(過去最高)の企業立地を実現しました。</p> <p>「ジェトロ奈良貿易情報センター」が平成30年11月に開設され、中堅・中小企業等の海外展開支援、農林水産物・食品の輸出促進、海外から奈良県への投資促進に向け、連携し取組を進めていきます。</p> <p>また、県内企業への就業を促進するために、しごとiセンターや県内就労あっせんセンターで求人・求職者へきめ細やかなマッチングを行うとともに、学生を対象とした合同企業説明会や県内企業見学バスツアー等を開催しました。</p> <p>県内企業での働き方改革や人材育成等に関する優れた取組や県民の皆様のご活躍を紹介することにより、働き方改革の促進、働く意欲の向上を願って「なら産業人材育成ジャーナル(働き方図鑑)」を発刊しました。</p> |
| <p>農林部長 山本 尚</p> | <p>本県の農・畜・水産業振興のため、これらのブランド認証と首都圏・海外でのプロモーションの実施、農地の有効活用を図る農地マネジメントの推進、食の拠点としての中央卸売市場の再整備、NAFICを核とした賑わいづくりなどに取り組みます。</p> <p>林業では、販路拡大に向け、奈良の木の持つ魅力の情報発信に取り組みるとともに、経済性と環境保全が両立できる森林づくりの実現に向け、スイスを参考として、森林の持つ「生産・防災・生物多様性・レクリエーション」の各機能を一元的に管理する「新たな森林環境管理制度」の導入に向けて取り組みます。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・農地の有効活用を図り、生産性の高い農業の展開を図るため、3町5地区を特定農業振興ゾーンとして設定しました。 ・「奈良県プレミアムセレクト」に、新たにハウス栽培の柿(刀根早生)を加え、県内外で販売しました。 ・「新たな森林管理制度」の方向性を定める(仮称)奈良県森林環境管理条例の制定に向け検討を進めました。 ・日本郵便が手がける東京駅近郊の商業施設「KITTE」において奈良の木のPRイベントを開催し、延べ約10万人の方に奈良の木の魅力に触れていただきました。 |
| <p>県土マネジメント部長 山田 哲也</p> | <p>奈良県が持続的に発展していくために、必要な社会基盤の整備に積極的に取り組んでまいります。</p> <p>新規事業化された京奈和自動車道大和北道路(奈良北IC～奈良IC)や紀伊半島アンカールートの国道168号新天辻工区など、県土の骨格となる幹線道路ネットワークの整備の推進を図るとともに、観光拠点間の周遊がスムーズにできるような交通対策を進めていきます。</p> <p>また、大和川流域の総合治水対策や土砂災害対策、インフラメンテナンスなどの防災・減災対策を実施し、県民の皆様のお安全・安心の確保に努めます。</p> <p>引き続き、県土マネジメントの推進に全力投球してまいります。</p> | <p>平成30年度は、京奈和自動車道大和北道路((仮称)奈良IC～郡山下ッ道JCT間)や大和御所道路(橿原北IC～橿原高田IC間)の工事着手による骨格幹線道路網の整備、「奈良県平成緊急内水対策事業」の開始により大和川流域の内水対策を進めました。さらに、土砂災害特別警戒区域の指定など、ソフト施策にも取り組んでおり、今後とも県土の強靱化に向けたハード・ソフト施策の推進により、住みよいまちづくりを目指し、全力投球してまいります。</p> |

「平成30年度 奈良県宣言」振り返り

| 宣言者 | 宣言 | 振り返り内容 |
|----------------------------|--|--|
| <p>まちづくり推進局長 増田 哲司</p> | <p>「奈良モデル」により市町村と連携し、鉄道駅などの拠点を中心としたまちづくりについて、地域の特色に応じた機能の充実・強化を図るなど重点的に進めるとともに、都市計画や建築・住まい施策についても、適切かつ効果的に推進してまいります。</p> <p>また、今年度末の完成を目指して整備を進めている(仮称)登大路ターミナルや、平成32年春完成予定の県営プール跡地のコンベンション施設の他に、吉城園・高畑町裁判所跡地の整備、都市計画道路西九条佐保線・JR高架化事業の推進、平城宮跡の更なる活用についても鋭意進めてまいります。</p> <p>関係者の皆様と連携して、しっかり取り組んでまいります。</p> | <p>市町村とのまちづくりに関する連携協定は今年度で5年目を迎え、これまでに27市町村、55地区でまちづくりに関する協定を締結し、基本構想・基本計画策定や個別事業の推進に対して、市町村を支援してまいりました。</p> <p>また、奈良公園の玄関口となる奈良公園バスターミナルが4月13日にオープンするはこびとなり、そのほかにも、来春の完成を目指す高畑町裁判所跡地の宿泊施設や県営プール跡地のコンベンション施設、都市計画道路西九条佐保線・JR高架化事業の推進、平城宮跡のさらなる活用の推進、建築・住まい施策の適切かつ効果的な推進について、現在、鋭意取り組んでいるところです。</p> <p>引き続き、関係者の皆様としっかりと連携し、取り組んでまいります。</p> |
| <p>水道局長 石井 一良</p> | <p>「県域水道一体化構想」の実現に向け、浄水場の集約、配水池や水道管路ネットワークの高効率化などを図る「上水道エリア一体化施設整備計画」策定を検討するとともに、将来の県域水道を見据えた「県営水道経営戦略」を策定します。</p> <p>また、安定した水道水の供給を目指し、市町村水源の県営水道へのスムーズな転換を促進するために必要となる施設整備・改修を着実にを行うなど、水道資産を最適化する「県域水道ファシリティマネジメント」の取組を一層推進します。</p> | <p>「上水道エリア一体化施設整備計画」の策定の検討を進め、関係市町村との合意形成を図るための施設共同化案を作成しました。</p> <p>また、生駒市において一部の水源を県営水道に転換するとともに、橿原市、御所市で直結配水を開始するなど「県域水道ファシリティマネジメント」の取組を着実に推進いたしました。</p> <p>なお「県営水道経営戦略」については「上水道エリア一体化施設整備計画」の内容を反映するとともに「新県域水道ビジョン」とも整合を図りながら策定することにしました。</p> |
| <p>教育長 吉田 育弘</p> | <p>奈良県の子どもたちが生涯学び続け、自立した社会人に育つことができるよう、家庭・地域、市町村及び大学等関係機関と連携を深めながら、「奈良県教育振興大綱」に掲げられた教育委員会所管の取組を着実に実行します。</p> <p>特に、次代を生きる子どもたちの学ぶ意欲と創造力を高めるため、魅力と活力あるこれからの高等学校教育の創造に全力で取り組みます。また、教職員が学び続けることのできる場を積極的に提供し、教職員の資質・能力の向上に努めます。</p> | <p>「奈良県教育振興大綱」に掲げられた教育委員会所管の取組等について、点検・評価を行いながら実行を促進してまいりました。</p> <p>特に、魅力と活力あるこれからの学校づくりを進め、高等学校教育の質向上を実現するために、「県立高等学校適正化実施計画」を策定しました。</p> <p>また、「奈良県教員等の資質向上に関する指標」に基づいた研修計画の策定や、本県の課題に対応した教員免許状更新講習の実施とともに、高大連携による教員養成プログラム「奈良県次世代教員養成塾」の高校生向け前期プログラムを開始しました。</p> |